

# 中小企業庁 in 滋賀

in

滋賀

日本企業の業績は、全体として減速の方向に向かっている。電機業界大手もかつてない赤字を出して苦境にあるが、これは企業だけの問題ではない。一方で、逆風下でも元気がいい企業もぎりがないほどある。不調な企業には、「効果の逆転」現象が起きている。今まで企業を支えてきたプラスの要因、例えば、優れた製品や経営の仕組みなど、がマイナスに働いている。つまり、市場環境やお客様が変わっているのに、従来のやり方や商品を続けた結果、今度はそれがもとで衰退している。電機で言えば、「テレビで伸びて伸びて沈む」という感じだ。日本中関係も企業活動に大きく影響している。現地の売り上げをみると、特に日用品に関わる業界で、売り上げが大きく下がっている。これまで企業は競争に進出したが、中国にどつて製造しているか。中国にどつて製造しているか。

日本モノづくり学会 会長 常盤 文克 氏



## 特別講演

今、求められる日本のモノづくりとは  
グローバル競争で生き残るために



滋賀県内経済団体の代表者らが一堂に意見交換を行った

### 「滋賀県中小企業の活性化の推進に関する条例」について



滋賀県知事 嘉田 由紀子 氏

日本中も同じだが、滋賀県内企業事業者数の99%を中小企業が占めている。進取の気性水を使つ纖維産業が湖畔に立地。第二弾は1963年開通した名神高速道路により京

業化が進んだ第一弾は大正末期から昭和初期、琵琶湖の軟水を使つ纖維産業が湖畔に立地。第二弾は1963年開通した名神高速道路により京

産業化が進んだ第一弾は大正末期から昭和初期、琵琶湖の軟

水を使つ纖維産業が湖畔に立地。第二弾は1963年開通した名神高速道路により京

産業化が進んだ第一弾は大正末期から昭和初期、琵琶湖の軟

水を使つ纖維産業が湖畔に立地。第二弾は1963年開通した名神高速道路により京